

# 令和8年度 豊田市立上鷹見小学校いじめ防止基本方針

## 1 いじめの防止等についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす行為でもある。また、どの児童も被害者にも加害者にもなりうる。だからこそ、児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、すべての教職員がいじめの防止等に取り組まなければならない。

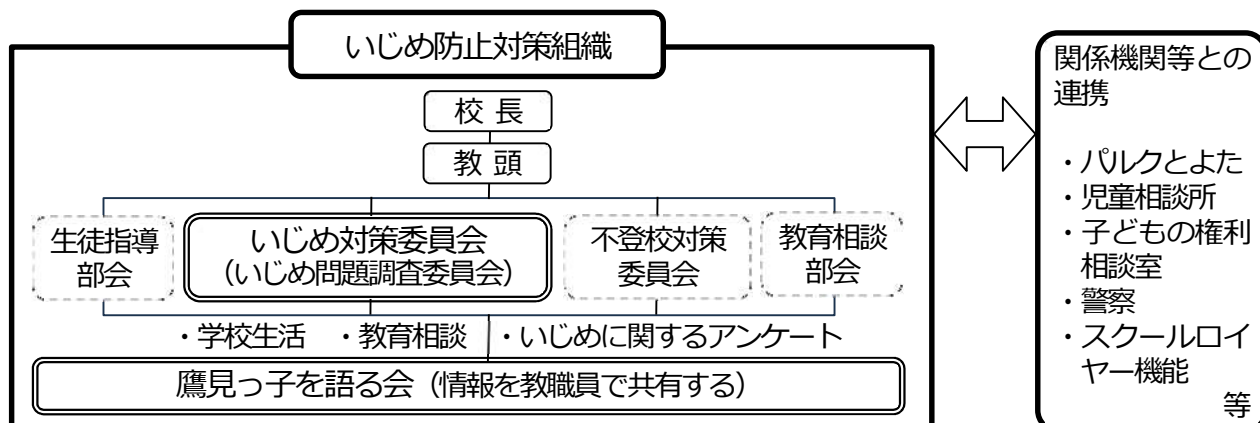
これらの基本的な考えを基に、教職員一人一人がいじめの問題の重大性を正しく認識し、日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。何より学校は、児童が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなくてはならない。児童一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。

そうした中で、児童が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

- ・ 教師は児童との触れ合いを密にし、心のつながりを大切にした学級・学校づくりをする。
- ・ 「いじめ対策委員会」を月に1度程度設定し、すべての教職員がどの児童にも共通の認識をもって、全校体制で児童一人一人の持つ悩みや不安を解決するよう支援する。
- ・ 職員会議後に「鷹見っ子を語る会」を行い、全教職員で児童の情報を共有する。
- ・ 児童に毎月、「学校生活アンケート（教育相談アンケート）」を実施し、6月・10月・1月に教育相談を実施する。児童だけでなく保護者にも教育相談アンケートを実施して、いじめや暴力の早期発見を図り、早期対応する。
- ・ 心の相談員による相談活動（1週間に3日程度）、スクールカウンセラーによる相談活動、パルクとよたによる相談活動などを保護者にも啓発し、児童・保護者がいつでもどこへでも相談しやすい体制を作る。

## 2 いじめ防止対策組織

校内に「いじめ対策委員会（いじめ問題調査委員会）」と「鷹見っ子を語る会」を設置し、ささいないじめの兆候や懸念、児童からの訴えを特定の教職員だけが抱え込むことのないよう組織として対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携し、適切な援助を求める。



(1) 「いじめ対策委員会」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

- ・学校評価アンケートを実施し、学校におけるいじめの防止等の取組の検証を行い、改善策を検討していく。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「豊田市いじめの防止等に関する条例」及び「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・教育相談アンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効性のあるいじめ防止等の取組に努める。
- ・教職員の資質能力向上を目指し、いじめの防止等に関する校内研修や伝達講習を計画・実施する。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・「学校いじめ防止基本方針」について、PTA 総会や学校運営協議会で説明したり、学校ホームページに掲載したりするなど、保護者や地域住民に周知を図る。また、ホームページ等を通して、いじめ防止等の取組状況や学校評価結果等を発信する。

エ いじめへの対処

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、直ちに「臨時いじめ対策委員会」を開催し、正確な事実の把握に努め、いじめの解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・「臨時いじめ対策委員会」において犯罪行為が疑われたいじめについては、直ちに学校から警察署（生活安全課）へ連絡・通報し、適切に連携を行う。その上で、学校としていじめの再発防止のための指導・支援体制を継続して行う。
- ・いじめ解消の判断をする。

(2) いじめ対策委員会の構成員

<教職員>

- 校長 ○教頭（教育相談コーディネーター） ○教務主任 ○校務主任 ○保健主事
- 養護教諭 ○教育相談主任 ○生徒指導主任
- ※必要に応じて、保護者の代表や校内外の専門的な知識を有する方を加える。
- スクールカウンセラー ○スクールソーシャルワーカー ○主任児童委員
- 学校運営協議会委員 ○PTA 代表者 等

(3) 「鷹見っ子を語る会」の役割

- ・教職員で児童の実態と指導方針の共通理解をし、いじめ問題に対して組織的に対応する。

(4) 「いじめ対策委員会」「鷹見っ子を語る会」の開催時期

ア 学校全体の様子を把握し、いじめの防止等に努めるために、毎月1回程度開催する。

イ 毎月職員会議後、「鷹見っ子を語る会」を開催し、日常の児童の実態を教職員で共通理解し、対応策の検討や方針の徹底をする。

ウ 緊急にいじめへの対処が求められる場合については、「臨時いじめ対策委員会」を開催する。

### 3 いじめの防止等に関する具体的な取組

#### (1) 未然防止の取組

- ア 児童同士の関わりを大切に、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。
- イ 各学年で担任と養護教諭による心の授業を実施し、自己肯定感や自尊感情を高められるようにする。
- ウ 児童の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- エ 児童が自らいじめについて考え、主体的に行動できる取組を充実させる。
- オ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育（権利学習プログラム）の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- カ デジタル・シティズンシップ教育を推進し、児童がインターネットやSNSの正しい利用とマナーについての理解を深め、責任ある行動ができるようにする。
- キ 感染症などに関連するいじめや偏見、差別をなくすよう学校全体で指導する。
- ク いじめの問題やその取組についての理解や協力を得るため、学校いじめ防止基本方針をホームページに記載するなど、保護者や地域住民、事業者等に対して広報啓発を充実する。
- ケ 全ての教職員が学校いじめ防止基本方針を共有し、いじめやその対応について正しく理解し、認識して教育活動に取り組む。

#### (2) 早期発見の取組

- ア 教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりを進め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- イ 教育相談アンケート（いじめに関するアンケート）や教育相談を定期的（6月、10月、1月の年3回）に実施し、児童の小さなサインを多方面から見逃さないように努める。
- ウ スクールカウンセラーによる児童全員との面談（5～6月）を実施し、専門的な知見をもとに児童一人一人に対するきめ細やかな対応ができるようにする。
- エ 学習用タブレットの「先生きて」を活用し、心配なことを相談できる環境を整え、児童の小さなSOSの把握に努める。
- オ いじめの相談電話等、外部の相談機関を紹介し、児童が相談しやすい環境を整える。
- カ 保護者向けのいじめに関するアンケートを定期的（5月、9月、1月の年3回）に実施し、家庭での子どもの変化に気づくことができるよう保護者と連携して対応する。
- キ 「いじめのサイン発見チェックシート（保護者用）」を学校ホームページに掲載し、保護者が早期発見できるようにする。
- ク 月に1回の「教員チェックシート（小学校）」による点検や年2回の「hyper-QU」の実施の結果から、学級の様子や個々の児童の様子を把握し、いじめの兆候の把握に努める。
- ケ 教職員間で情報共有する「鷹見っ子を語る会」を定期的に設け、一人の判断で見逃したり抱え込んだりすることがないようにする。

#### (3) いじめへの対処

- ア いじめの発見・いじめの疑いがあるとの情報があった場合は、担任、生徒指導担当に連絡し、連絡を受けたものは、速やかに管理職へ報告をあげ、「臨時いじめ対策委員会」を開催し、組織的に対応する。
- イ いじめを受けた児童の安全を確保し、対応する。
- ウ いじめの状況について児童に聴き取りを行う際には、客観的な事実を把握するよう心がけ、事実を正確につかむようにする。

- エ 記録は、事実が正確に記録されるようにし、適切に管理・保存する。
- オ いじめを行った児童には、教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- カ 教職員の共通理解、保護者との連携、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家や、豊田加茂児童・障害者相談センター等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- キ 対応が困難な場合などは、パレクとよたのいじめ対応支援チーム、心理や福祉の専門家などからの指導・助言を受けるなど、豊田市教育委員会や関係機関等と連携し、適切な助言等を受ける。
- ク いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、新たに生み出さない集団づくりを行う。
- ケ 学校外で発生したいじめについて、放課後児童クラブやとよた地域クラブ活動等、児童が所属する団体等がある場合は、当該団体等と連携して対応、指導、見守りを行う。
- コ インターネット上の名誉棄損行為等、犯罪行為が疑われるいじめ事案については、警察署とも連携して行う。

#### 4 いじめの重大事態の疑いがある事案発生時の対応

- (1) いじめの重大事態が疑われる場合は、速やかに教育委員会へ状況を報告し、早期解決を図る。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ問題調査委員会（いじめ対策委員会が兼ねる）」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- (3) 調査の目的等については、いじめを受けたとされる児童やその保護者、いじめを行ったとされる児童やその保護者に対して説明する。
- (4) 調査結果については、いじめを受けた児童やその保護者、いじめを行った児童やその保護者に対して適切に情報を提供する。

#### 5 学校の取組に対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止等の取組については、取組の内容を振り返り、児童や保護者、地域の方の意見を参考にした上で定期的に見直しを図り、実効性のある取組となるよう努める。
- (2) 教職員による「点検と見直しのためのチェックシート」、「【チェックリスト①】いじめ重大事態に対する平時からの備え」を年2回（7月、12月）、保護者による「教育相談アンケート」を年3回（5月、9月、1月）実施し、いじめ対策委員会で取組の検証を行う。
- (3) いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校評価アンケートを実施（1月）し、いじめ対策委員会でいじめに関する取組の検証を行う。

#### 6 その他

- (1) いじめ防止等に関する校内研修（OJT研修）を年2回計画し、児童理解やいじめの防止等に関する教職員の資質向上に努める。
- (2) 「学校いじめ防止基本方針」は4月に保護者に配付し、ホームページにも掲載する。
- (3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめの未然防止やいじめの早期発見に取り組む。

<参考資料 取組の年間計画>

		いじめ防止対策組織	未然防止の取組	早期発見の取組	保護者・地域等との連携
4月	P ↓ D	○全職員による「学校いじめ防止基本方針」の内容の確認 ○教育相談活動計画の提案 ○現職教育① (パレクとよた動画研修)	○相談室やSCの児童、保護者への周知 ○学級開き、学年開き	○児童、保護者へいじめ相談窓口を周知 ○定期健康診断の実施	○PTA総会等での「学校いじめ防止基本方針」の説明 ○希望者個別懇談会 ○学校ホームページに「学校いじめ防止基本方針」を掲載
5月		○いじめ対策委員会 (アンケートと腫、顔の腫) ○e-ラーニング(いじめ問題への対応)	○田植え(全校) ○新入生歓迎会 ○SCとの全校面談	○学校生活アンケート①	○保護者による「教育相談アンケート」
6月		○いじめ対策委員会 ○全職員による「学校いじめ防止基本方針」をもとにした対応の点検	○情報モラル指導Ⅰ(ネットモラル) ○SCとの全校面談 ○心の授業	○hyper-QUの実施 ○ミニアンケート① ○教育相談週間① ○身体測定の実施	○学校アドバイザー会議
7月	C ↓	○いじめ対策委員会 ○全職員による「点検と見直しのためのチェックシート」の実施→検証 ○hyper-QUブロック別研修	○心の授業	○ミニアンケート②	○個別懇談会
8月	A ↓	○中間評価→検証 ○現職教育②(いじめ対応) ○現職教育③(hyper-QU)			
9月	P ↓	○いじめ対策委員会	○夏休み後集会 ○稲刈り(4・5年) ○心の授業 ○子どもの権利学習プログラム	○学校生活アンケート② ○身体測定の実施	○保護者による「教育相談アンケート」
10月	D ↓	○いじめ対策委員会 ○全職員による「学校いじめ防止基本方針」をもとにした対応の点検	○全校湿地学習会 ○心の授業	○教育相談週間② ○ミニアンケート③	○学校公開日
11月	C ↓	○いじめ対策委員会	○運動会 ○心の授業	○ミニアンケート④ ○hyper-QUの実施	○保護者への学校評価アンケート
12月	A ↓	○いじめ対策委員会 ○全職員による「点検と見直しのためのチェックシート」の実施→検証	○人権週間(講話) ○赤い羽根募金活動 ○情報モラル指導Ⅱ(ネットモラル)	○ミニアンケート⑤	○希望者個別懇談会
1月	D ↓	○いじめ対策委員会 ○学校自己評価	○冬休み後集会 ○心の授業	○身体測定の実施 ○学校生活アンケート③ ○教育相談週間③	○学校公開日 ○学校アドバイザー会議 ○保護者による「教育相談アンケート」
2月	C ↓	○いじめ対策委員会	○感謝する会(全校)	○ミニアンケート⑥	○学校公開日
3月	P ↓	○学校関係者評価の結果を検証し、「基本方針」の見直し	○6年生を送る会	○文科省「生徒指導上の諸問題調査」によるいじめ調査	○学校評価委員会で「自己評価」の評価を行う。
通年		○校内のいじめに関する情報の共有(鷹見っ子を語る会) ○対応策の検討 ○伝達講習を定期的開催(OJT)	○集会における校長講話 ○道徳教育、体験活動の充実 ○自己肯定感を高める授業づくり ○デジタル・シティズンシップ教育の推進	○健康観察の実施 ○ミニ通学団会(毎月末) ○SCによる相談 ○生活日記、ノート等 ○学習用タブレットの「先生きて」 ○教員チェックシート(毎月末)	○あいさつ運動 ○登下校の見守り ○学校ホームページに「いじめのサイン発見シート(保護者用)」を掲載 ○放課後児童クラブやとよた地域クラブ活動との情報共有